



# 災害の多い時代を共に乗り越える

—災害拠点病院の立場から—



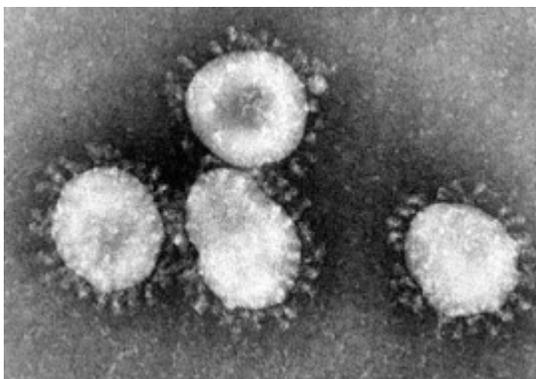
松山赤十字病院 患者支援センター

看護師長 塩崎博子



# 地域の最近の災害

- 2018年 西日本豪雨災害
- 2019年 令和元年東日本台風  
(台風19号)
- 2020年 新型コロナウイルス感染症



日本赤十字社  
New Corona

## 新型コロナウイルスの 3つの顔を知ろう！

～負のスパイラルを断ち切るために～

新型の  
コロナ

- 2020年 令和2年7月豪雨  
県内(一部)避難指示
- 2021年 令和3年7月・8月 集中豪雨

### 県内豪雨 松山赤十字病院 大洲・宇和島に支援チーム



被災地で職員の心のケアに当たる看護師ら(17日、23日、大洲市徳森 日本赤十字社県支部提供)

西日本豪雨で被災した県内の自治体職員の  
中には、自らが被災しながらも災害対応に当  
る人がいる。復旧・復興作業が長期化する中、  
こうした「支援者」の心のケアを担うため、松  
山赤十字病院(松山市文京町)の支援チームが  
7月21・25日、宇和島、大洲の両市に派遣され  
た。市役所などで職員に向き合ったサポーターは  
看護師ら。「心も体も健康でなければサポートは  
できない。まずは自分の健康に目を向けてほし  
い」と呼び掛ける。(1面参照)

## 被災地職員 心身ケアを

### 不眠・食欲不振・仕事山積…「自分の健康に目向けて」

でも業務負担が増加し、  
うつ病や心的外傷後スト  
レス障害(PTSD)を  
患った職員が増えたこと  
が問題になった。  
チームは、災害時の心  
の変化などについて専門  
的な研修を受けた看護師  
らで構成。県の要請を受  
けて、3班計9人が各市  
の本庁や公民館を訪れ、  
会議室などの一角に相談  
スペースを設けた。血压  
測定などを通して職員の  
健康状態をチェック。音  
楽を流し、菓子を提供し  
ながら少しでも心安ら  
げ場をつくり、訪ねてきた  
計91人の声に耳を傾け  
た。

宇和島市で活動した看  
護師広瀬陽子さん(41)  
は、「災害が起きた日か  
ら休まずに働いているの  
に、自身のつらさやしん  
どきに気付いていない人  
が多かった」と振り返る。  
被災のショックによる  
不眠や食欲不振、仕事が  
山積し先行きが見通せな  
い不安…。話を聞くうち  
に職員は少しずつ気持ち  
を吐き出していった。お  
ける職員は「第三者に話を  
聞いてもらったかった」と  
涙を流したという。

松山赤十字病院の酒井  
富美香副部長(50)は  
「職員へのアプローチは  
方法にまだ課題はあるも  
の、長期的な活動を続  
ける支援者側へのケアは  
欠かせない。リラックス  
して弱音を吐ける環境が  
重要で、今後必要があ  
れば、派遣に応じたい」  
と話している。(原田茜)

日本赤十字社県支部福  
祉係長で看護師の荒木美  
穂さん(47)は、同病院の  
臨床検査技師坂本真喜さ  
ん(33)とともに大洲市に  
3日間滞在した。水害に  
より職員も多かれ少なか  
れ被災していたが、「大  
変な思いをしている市民  
がいると、自分のことは  
後回しにして業務に励ん  
でいた」

睡眠不足やストレスな  
どのため血压が上がって  
いる人は多く、体調面に  
不安を抱える職員には医  
療機関の受診を促した。  
荒木さんは「災害で助か  
った命を守り、健康を維  
持しながら復旧・復興作  
業を進めることが大切」  
と強調する。

日本赤十字社では、2  
000年の北海道・有珠  
山噴火救援から、救護活  
動の柱として被災地で心  
のケアに取り組んでい  
る。



# 地域包括ケアの時代の災害

## 時々入院、ほぼ在宅



## ○複合災害は想定外？

## ○地域での生活の変化は？

- ✓ 高齢化の進展（災害弱者の増加）
  - 高齢者の割合増加
  - 1人暮らし高齢者の増加
  - 認知症高齢者の増加
  - 要介護者の増加
- ✓ 在宅療養者の増加
- ✓ 生活支援ネットワークの充実
- ✓ コロナ禍の分散避難





# 日本赤十字社長期ビジョン

災害や紛争から人々が守られる社会づくり

- 多発する自然災害や紛争、感染症による犠牲者支援
- 災害に強い地域づくり



□ 救護班：全国で約500班  
(7,000人)

□ dERU（仮設診療所）

□ こころのケア

□ 救護物資の配分

□ 血液製剤の配給



## 戦略 1

## 災害や紛争時における支援の充実とレジリエンスの強化

— 誰一人取り残さない救援を展開、災害に強い地域社会を —



1

### 国内事業と国際事業の融合による新たな活動の推進

- 国内事業の強みを生かした新たな国際活動にチャレンジ
- 災害時における国際赤十字からの支援のスムーズな受援体制の構築
- 国際的な人道対応の活動基準に準拠した国内救護活動の展開

2

### 災害時に支援の届きにくい分野への貢献

- 避難所の運営協力、生活支援、障がい者・外国人支援等
- 被災地の状況を被災者の声や思いとして社会に広く発信
- 政治・治安情勢等で介入困難な国・地域への支援





# 当院（災害拠点病院）の備え②

日本赤十字社  
Nippon Red Cross Society

## 松山赤十字病院 災害対応マニュアル ~Disaster Response Manual~



【 2021.04. ver 】



日本赤十字社  
Nippon Red Cross Society

地域災害拠点病院  
松山赤十字病院  
Matsuyama Red Cross Hospital

## 松山赤十字病院のBCP (事業継続計画)



平成 30 年 1 月

現在  
改訂

松山赤十字病院 災害対策委員会

## マニュアル

- ✓ 災害対応マニュアル
- ✓ 松山赤十字病院のBCP
- ✓ 救護班要員マニュアル
- ✓ 救護班待機体制マニュアル
- ✓ 原子力災害における救護活動マニュアル

など

## 研修会

- ✓ 救護員院内認定プログラム
- ✓ 災害時初動受け入れ訓練
- ✓ こころのケア研修会
- ✓ 防災避難訓練

など



# 当院（災害拠点病院）の備え③

## 常備救護班

救護班

救護班

救護班

救護班

救護班

救護班

救護班

救護班

## 特殊救護班

D  
M  
A  
T

D  
M  
A  
T

D  
M  
A  
T

原子力災害医療派遣チーム

こころのケアチーム

# 大規模防災訓練



仮説テント内 黄色エリア

トリアージ



# 患者支援センター



## 【入院支援】

## 【地域医療連携・療養支援・医療相談・病床管理室】



## 【カンファレンス室】





# もし、今、地震が起こったら？



## <患者支援センターで起こること>

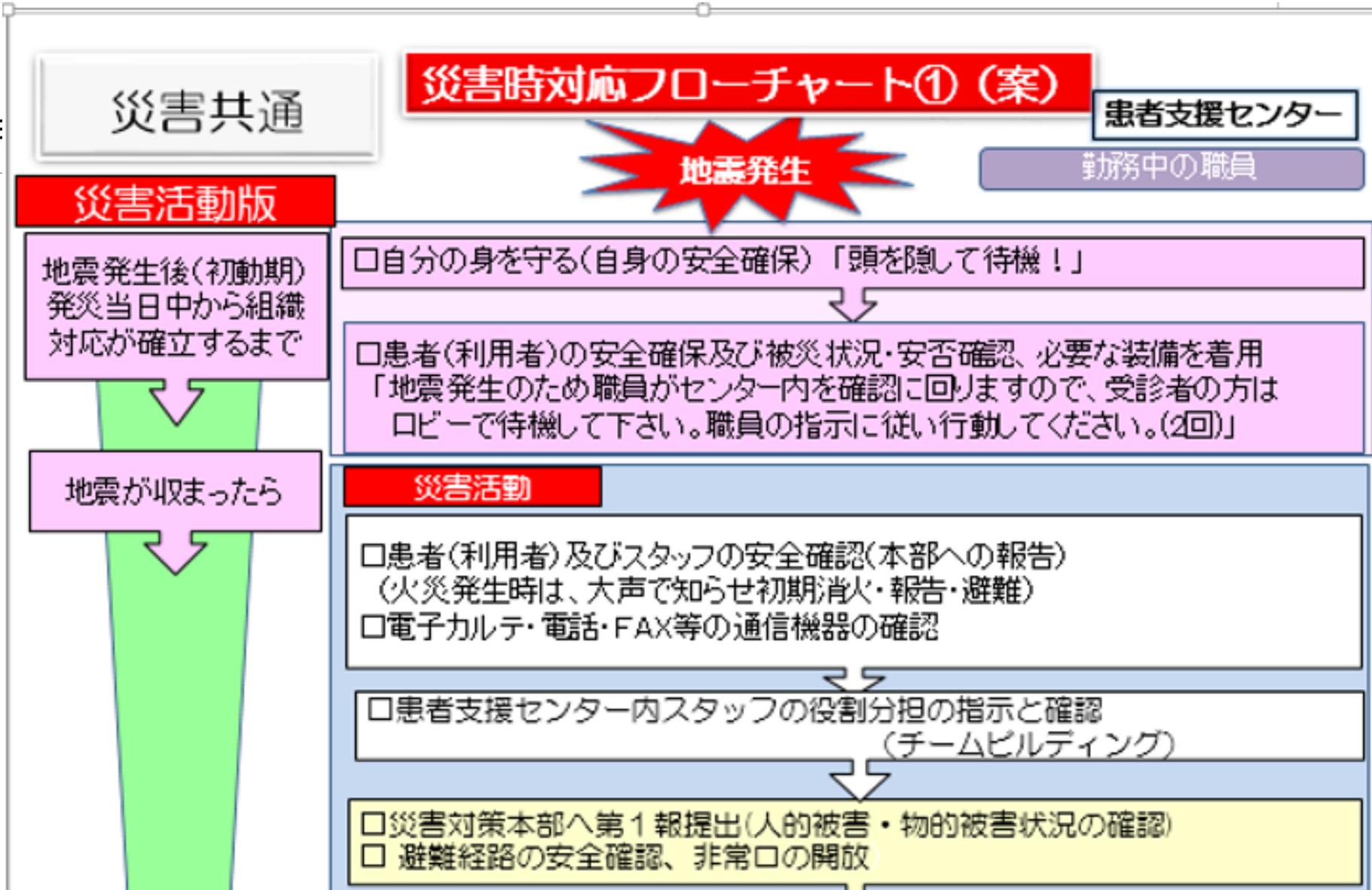
- FAX通じない！紹介（前方連携）はどうすればいい？
- 電話も通じない！
- 今日、転院の患者さんは、どうなる？
  - 転院先への連絡はどうする？家族は到着している？
  - 転院先までの移動経路の安全確認はできる？
  - 介護タクシーへの連絡はどうする？
- 本日、転入予定の患者さんは、どうなる？
  - 連絡はできる？もう当院に向かっていたら？
- 被災者受け入れ用のベッドを空けないといけない！
- 災害モードで（災害時の役割のため）、スタッフがいなくなる！





# 患者支援センターで取り組んだこと（令和2年度）

アクション



患者支援センター業務の継続と復旧活動【災害対策本部、病棟等との連携】

病院 BCP にそった業務復旧活動

【災害対策本部】

- 被災状況の確認をする。  
(災害レベル決定)

災害レベル決定

- EMIS等で患者受け入れ可能病院の把握をする。
- 患者情報を受けてのベットコントロールをする。

【病 棟】

- 病棟の入院患者と転入・転院患者と空床の確認と本部報告をする。

- 入院患者の転院（重傷者、軽症者等）・転入転院予定患者の搬入・搬送及び帰宅等の可否を検討する。

※必要に応じ、医師、看護師、コメディカル等でのカンファレンスを実施する。

- 患者・家族への病状説明、転入・転院、帰宅等について説明をする。

【患者支援センター】

- 連携調整班リーダーは、転院予定患者リストを災对本部に報告し、本部にて患者支援センターとの調整を行う。

- 発災後の転入転院予定者・家族と連絡調整をする。  
(災害対策本部の指示)

- 担当MSWによる情報収集  
※主治医・看護師等からの聞き取りとカルテからの情報収集をする。

## 災害時対応フローチャート③（案）

患者支援センター

### 災害時の準備物品リスト

持出責任者  
防災担当者

※ 電子カルテ、通信機器等の使用不可時

前方連携	入院支援	療養支援
<input type="checkbox"/> 連携経路予約リスト （転入予定者リスト）	<input type="checkbox"/> 当日の入院支援患者リスト	<input type="checkbox"/> 医療連携推進のための手引き
<input type="checkbox"/> 登録医等関連施設連絡先台帳 （医療圏、地区別）	<input type="checkbox"/> 当日の入院予定患者リスト	① 病院リスト（付録）
<input type="checkbox"/> 前方連携患者台帳		② 介護タクシー一覧（付録）
<input type="checkbox"/> 画像検査予約済一覧		③ 愛媛県救護活動要領 ※ 様式10 《傷病者・難病患者等収容搬送票》 （付録）
<input type="checkbox"/> 画像検査予約済一覧		<input type="checkbox"/> 転院患者一覧
<input type="checkbox"/> 他院紹介患者依頼中の診療 情報提供書及び予約申込書		
<input type="checkbox"/> 情報提供書控		



## 問題提起① 連携機関との情報共有方法の検討

### ➤ 情報共有・伝達の方法

FAX → メール → LINE・・・

### ➤ 近隣病院・施設等の被災状況、稼働状況

### ★西日本豪雨の経験

・いつでも対応できる準備 → 情報が無い！



## 問題提起②

# 災害時連携タイムライン

- 災害状況に応じて、連携機関との事前の取り決めレベルに応じた
  - 連絡方法
  - 連絡のタイミング
  - 問い合わせ窓口の一本化
  - 連携（転院）中止の基準
- 患者受け入れの方法



## 問題提起③ 相互に補完し合う体制づくり

### ➤ 災害時の業務の整理・共有

1. 他の病院や診療所との、患者や傷病者の「相互受け入れ」
2. 他の病院や診療所との、病歴などの「患者情報の共有」
3. 他の病院や企業等との、医薬品等の「在庫情報の連携」



## 問題提起④ 地域のHealth care BCP

- 地域全体のBCP 地域のHealth care BCP

例) “地域医療連携を考える会”での検討会

テーマ) ICTの活用

連携施設の訓練への相互参加（交流）

★災害への危機感を共有し、災害時も顔の見える連携

★With コロナの備え

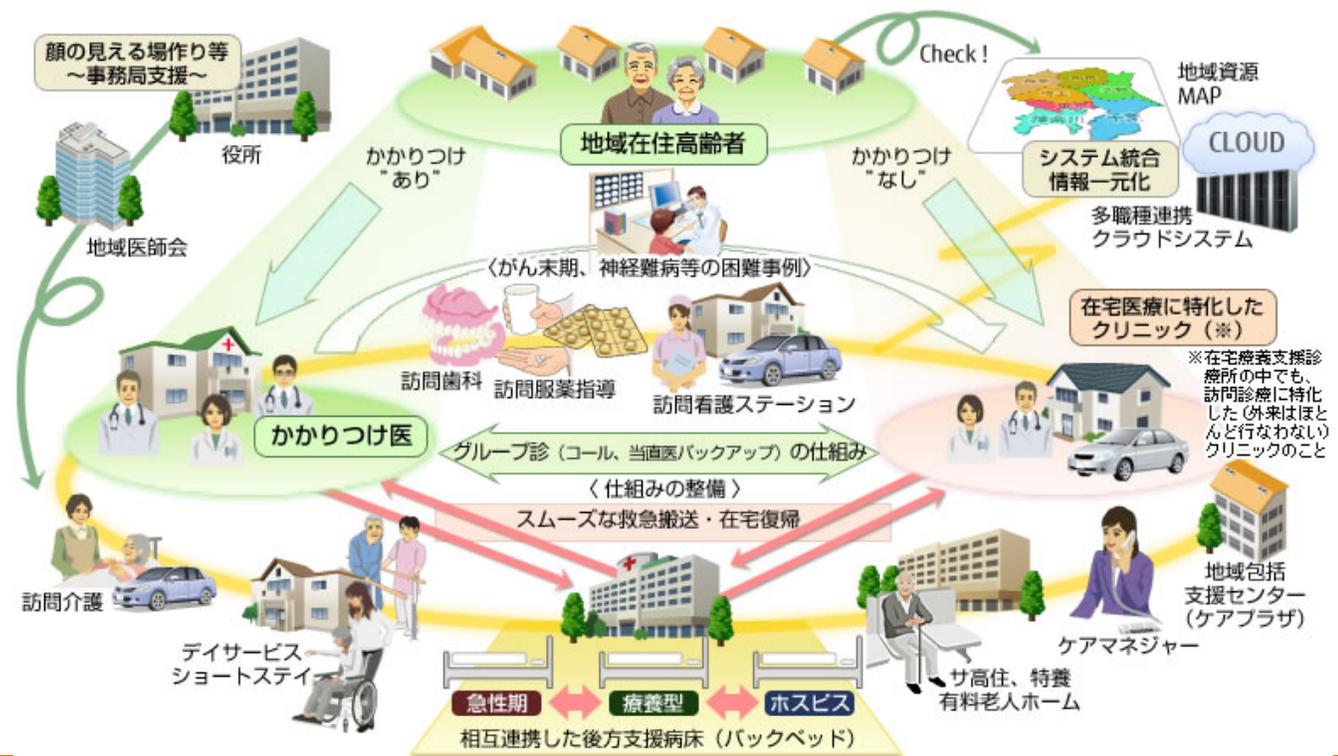


# 災害に強い地域包括ケアシステムとは？



愛媛県HPより

## “地域包括ケアシステムの多種多様な構成要素”を、どうつないでいくのか？





# まとめ

ネット時代だからこそ、より人間力が試される  
WITHコロナだからこそ、つながりが必要



人間を救うのは、人間だ。 Together for humanity